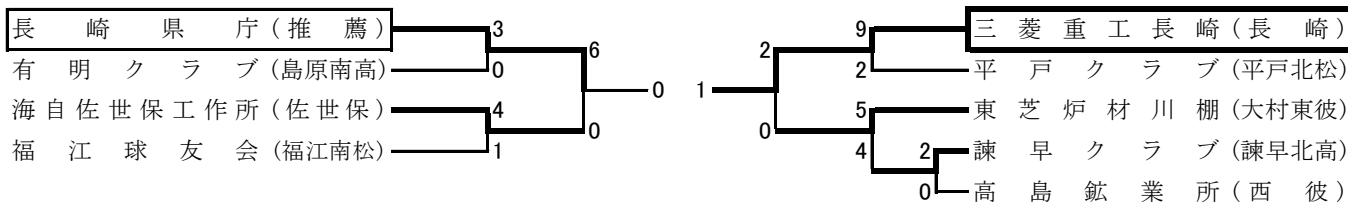


三菱重工長崎が県庁を1-0で下して初の栄冠

第17回長崎県下軟式野球選手権大会

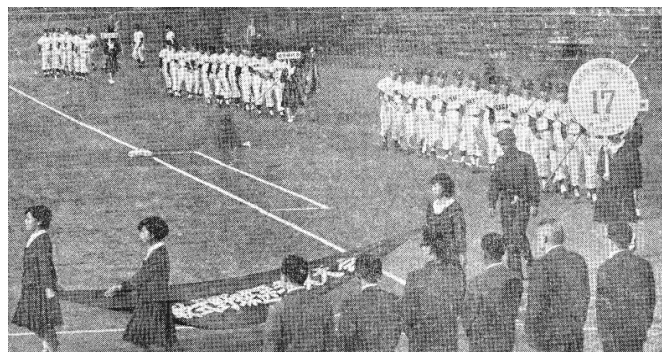
会期 昭和42年10月14日(土)～15日(日)
会場 長崎市営大橋球場



県下軟式野球界の王座をかけた第17回県下軟式野球選手権大会は前夜までの雨空もあがり、爽やかに晴れ渡った14日、大橋球場に昨年度優勝の県庁をはじめ、各予選を勝ち抜いた代表9チームが参加して開幕した。

開会式では長崎市消防局音楽隊の吹奏する軽やかなマーチによって推薦出場の県庁を先頭に各代表チームが地区予選の優勝旗をなびかせて堂々の入場。次いで国旗・大会旗・長崎新聞社旗・県軟式野球連盟旗が次々と掲揚され、大会副委員長の古川長崎新聞社事業部長が開会を宣言。続いて優勝旗が返還され、伊東長崎新聞社取締役があいさつ。金谷国体事務局長(知事代理)、川谷長崎市体育課長(市長代理)も晴れの大会に祝福のことばを述べた。これにこたえて選手を代表して長崎県庁主将の佐々野泰臣選手が選手宣誓。その後、県軟式野球の発展に尽くした県軟式野球連盟前会長の田中光成氏に長崎新聞社と同連盟から感謝状が贈られた。

開会式に続き午前9時半から第1試合の県庁ー有明クラブ



◇大会旗を先頭に各地区代表9チーム、堂々の入場行進◇

の試合を開始したが、試合に先立って投手・金谷県国体事務局長、捕手・川谷市体育課長、打者・松浦県軟式野球連盟会長、球審・伊東長崎新聞社取締役で始球式を行なって熱戦の火ブタを切った。

(昭和42年10月15日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

県庁の代打策的中

(審判) 伊藤、中田 森、佐方

【二回戦】=第1試合= 振球犠盗併残失 1時間18分

長崎県庁	000 000 3	3	4	4	1	0	0	3	1
有明クラブ	000 000 0	0	8	0	0	0	0	2	3

【三】松尾
【二】北田

【評】有明クの金子は小柄ながらも伸びのある速球にカーブの切れもよく二回までに4個の三振を奪う好調な滑り出しで県庁打線も押され気味だった。しかし好調だけに金子は飛ばし過ぎた感じ。五回ごろからボールが多くなり、七回に佐々野、比留木を歩かせて一死二塁のピンチを招いた。ここを勝負どころと見た県庁は代打に松尾を送ったが、松尾は期待にこたえて2-0後真ん中に入ってくるカーブを右越え三塁打して二者を迎え入れ自らもバークで還った。県庁の代打策的中といえるが有明クにとっては七回になって3点は致命的だった。松尾の当たりは風があったとはいえ取れない飛球ではなく拙守によるもので金子にとっては気の毒。

県庁の山内は二回先頭の北田に二塁打を喫するなど立ち上がりは良くなかったが適当に荒れていたのがよく三回以降は無安打で完封勝ちをした。有明は二回無死二塁を手堅く攻めて先取点をあげておくべきだった。

【県庁】打安点	【有明】打安点
⑥ 宿輪 2 1 0	③ 松本輝 3 0 0
⑨ 町田 3 0 0	⑦ 竹之内 3 1 0
⑤ 小森 3 0 0	① 金子 3 0 0
③ 佐々野 2 0 0	⑤ 長野 3 0 0
⑦ 今村 2 0 0	⑥ 北田 3 1 0
⑧ 比留木 2 0 0	④ 馬場 2 0 0
④ 日浜 2 1 0	H 菅 1 0 0
H2 松尾 1 1 2	⑧ 松本真 2 0 0
② 宇野 2 0 0	⑨ 宇土 2 0 0
H4 本田 1 0 0	② 本多 2 0 0
① 山内 2 0 0	24 2 0
22 3 2	

『出場チームの横顔』 大会4日前の長崎新聞に掲載：有明クラブ

3年連続通算5回目の出場。島原・南高地区では県大会への代表権をほとんど獲得しており実力ナンバーワンと自他ともに許している。チームの特徴はエース金子を軸にした堅い守り。金子は小柄だがバネがあり速球、カーブ、シュートを巧みに操る多彩なピッチング。特に落ちる球が効果的。コントロールもよいがただ一つムキになるのが欠点。リーリーフには速球の矢島がいるがコントロールが不安。

伊達監督が心配しているのは打力。上位下位ともスピードボールに弱く地区予選でも島原温泉病院の井上に手をやいていた。主軸の金子、長野、北田はこのところ三割をマークしているが県大会で通じるかどうか。町役場、農協、学校に勤めている人や、農家の人を集めた混成チームだが日頃の練習でチームワークに全く不安は無いという。本大会に波乱をまきおこすチームになるかどうか。

監督・伊達秋信 部長・北浦良正 投手・金子一雄、矢島喜久男 捕手・本多憲明、宇土則治 内野手・松本輝夫、長野透、北田清八郎、馬場顕亮、菅義秋 外野手・松本真、竹之内和威、高松繁明、吉田淳、田村一弥

【福江】打安点

⑧ 布袋	2 0 1
⑦ 才津	3 0 0
⑥ 佐々木	3 0 0
⑤ 御手洗	3 0 0
④ 平山	2 0 0
H 金子	1 0 0
② 田端	2 1 0
③ 山口	1 0 0
⑨ 大木	1 0 0
① 田中	2 2 0
20 3 1	

海自、序盤に決める

【二回戦】=第2試合= 振球犠盗併残失

福江球友会	000 001 0	1	1	1	2	0	1	1	2	1時間20分
海自佐世保工作所	130 000 X	4	1	2	2	1	0	2	0	

【三】田中【二】佐々木(海)、田端 (審判)松尾、平井、井上、宮口
 【評】海自が一二回に挙げた4点が大きくものをいった。海自の得点は初回大塚を三塁に置いて山崎強が左前タイムリーを放って1点。二回は四球と稲田の安打で無死一二塁の好機に早崎のバントは投手の正面をつき三封され一死となったが山崎光の遊ゴロが悪送球を誘って稲田がかえり佐々木の左中間二塁打で2点を加えた。この味方のリードに余裕を持った田中は打たせて取る投法で六回に田中の右中間三塁打と布袋の犠飛による1点を与えただけだった。

福江の田中投手も決して悪い出来ではなかったが打力、守備力の差が勝負を決めた。

【海自】打安点

② 佐々木	2 1 2
⑧ 大塚	3 0 0
⑤ 山崎強	3 1 1
⑥ 林	3 1 0
① 田島	1 1 0
③ 稲田	3 2 0
⑨ 早崎	2 0 0
H4 菅	0 0 0
④ 山崎光	2 0 0
9 徳永	0 0 0
⑦ 秀島	2 0 0
21 6 3	

『出場チームの横顔』 大会4日前の長崎新聞に掲載：福江球友会

メンバーのほとんどが五島高校野球部OBで固めたチームだが店員、商店の若旦那、公務員、会社員といった多彩な顔ぶれで『野球がメシより好き』な野球狂の青年ばかり。平山が昨年同様プレーイングマネージャーとして采配を揮う。打撃、守備とも華やかさはないが各選手平均した力を持っている。主軸は貞方、平山で調子づくるとひと暴れする。投手は田中、植松、大

木の3人。エースの田中は五高時代は遊撃手だったが卒業後投手になった。小柄ながら速球を投げる。リリースに使う植松は技巧派で大木は田中とよく似た速球投手。

去年は諫早市役所に惜敗したので「今年こそは」の意気に燃え猛練習した。チームワーク、打線投手力とも昨年以上の力をつけており堂々と戦うと全選手の気合は充分。

監督・平山昌一 投手・田中範彰、植松和仁、御手洗泰朗、大木清忠 内野手・貞方泰則、田端辰生、千巢靖文
 浜辺宏、太田秀隆 外野手・布袋重夫、山内照夫、才津憲生、金子国勝、山口正男、才津浩章、平山俊之、森久徳、才津勝

諫早く、高島破る 延長9回 向井が決勝二塁打

【一回戦】=第3試合= 振球犠盗併残失

諫早クラブ	000 000 002	2	8	2	0	3	1	4	0	1時間43分
高島鉱業所	000 000 000	0	6	1	0	0	0	6	2	

(延長9回)【二】向井 (審判)中田、森、佐方、深堀

【評】諫早くは二回山口、神崎が連打しながら山口の拙い走塁で、高島は五回桜井、山崎健がこれまた連打しながら桜井の三盗失敗で、一回ずつチャンスをつぶし延長戦に入ったが、九回の諫早くは二死後に内野陣の連失で好機をつかみ向井が粘ったあげく2-3から真ん中やや高目のストレートを左中間に弾き返して二者を迎え入れた。それまで速球、シュートのコントロールよく諫早く打線を3安打に抑えていた左腕の桜井にとって痛恨の一球だったが、責めはその前にエラーを犯し好投桜井の足を引っぱった内野手が負うべきである。

その裏の高島も松尾と松本の安打で二死三塁と諫早くをおびやかしたが、当たっている桜井が宇戸の力投の前に投飛に倒れ、万事休した。宇戸の球威の衰えは隠せないが要所をうまく締めくくる辺りはさすがだった。

『出場チームの横顔』 大会4日前の長崎新聞に掲載：三菱高島鉱業所

去年は坑内事故のため棄権したが今年は新生高島として張り切っている。新人6人が入って平均年齢も28歳から24歳と若返った。しかし新人が多い関係上、力はあるが荒削りでずいぶん野球は身につけておらず多少モロい点はある。

投手陣は桜井が健在。速球、カーブに威力があるがなんといってもコントロールが良い。今季公式戦5試合で自責点は2

【諫早】打安点	【高島】打安点
⑧ 毎熊	2 1 0
⑨ 熊崎	4 0 0
⑤ 高島	4 0 0
③ 松本	4 0 0
⑦ 本田	2 0 0
H7 向井	2 1 2
② 山口	4 1 0
④ 神崎	3 1 0
① 宇戸	3 0 0
⑥ 中路	3 0 0
31 4 2	
⑤ 藤崎	4 0 0
② 小島	4 0 0
⑥ 松尾	4 1 0
⑧ 島内	4 0 0
⑦ 松本	4 1 0
① 桜井	4 2 0
⑨ 山崎健	3 1 0
④ 山崎弘	3 1 0
③ 佐藤	2 0 0
32 6 0	

点というから立派。この桜井を生かすも殺すも打力次第だ。往年の猛打高島のイメージには程遠くスケールの小ささは否めない。守備の派手さは無いが堅実で高い守備で盛り立て早い機会に藤崎、松尾を中心とする打線が先制点を叩き出して逃げ込みたいところ。仕事で全員練習はできなく公式戦の機会も少ないが、調子に乗ると侮れないチームだ。

監督・佐藤登 コーチ・福島政登 投手・桜井淳一 捕手・西山和男 内野手・山崎健二、阪田豊明、藤崎寿彰、松尾昭人
 外野手・松本重喜、島内豊春、山崎弘孝 補欠・長崎蔵人、春山次弘、内野勝利、坂田正則、高野武広、久野輝雄、小島健一郎

初回、一挙に7点 三菱重工、平戸クに快勝

【二回戦】=第4試合= 振球犠盗併残失

三菱重工長崎	700 110 0	9	2	9	0	3	0	8	1	1時間30分
平戸クラブ	002 000 0	2	3	2	0	0	0	2	1	

【三】野原【二】堤、野原 (審判)米崎、上川、宮口、清水
 【評】平戸クの先発肥後屋はスピードも中途半端だったがコントロールが無いのが致命的。小崎に中前に叩かれた後三者連続で歩かせ押し出し点を与えて降板。救援した堤も真崎を三振に斬ったものの二者に四球。三番手の浦田も是成に選ばれた後野原に満塁一掃の三塁打を喫しこの回大量7点を許す始末。これで勝負あったも同然。

平戸クは三回から代わった松山の代わり鼻を攻め二死後に浦田の四球を足場に三輪、堤の長短打で2点を返したが焼け石に水だった。

三菱は一回に大量点を取ったことからその後のバッティングがやや雑になったが四回は小崎、真崎の安打で、五回は黒岩、野原の長短打で小刻みに加点し一方的に試合を進めた。三菱がエース福岡を二回で代えたのは準決勝以降に備えてのことでありこう点差が開けば当然の策といえる。

【三菱】打安点	【平戸】打安点
③6 野原 5 2 4	⑥三輪 3 1 0
⑨小崎 5 2 0	⑨14 堤 3 1 0
⑧3 山田 2 0 0	①7 肥後屋 3 0 0
⑤野中 1 0 0	⑤作元 3 0 1
②江崎 3 0 1	③1 早田 2 0 0
④真崎 4 1 1	H 桑山 1 0 0
⑥1 松山 3 1 1	②柳本 2 0 0
①福岡 1 1 1	2 黒崎 0 0 0
7 黒岩 2 1 0	⑧高本 3 0 0
⑦8 是成 3 0 1	⑦9 木山 2 0 0
29 8 9	④13 浦田 1 0 0
	23 2 1

『出場チームの横顔』 大会4日前の長崎新聞に掲載：平戸クラブ

地区予選では優勝戦で生月町役場を相手に猛打を欲しいままにしたが地区代表としては同チーム以外には考えられない。チーム結成以来6年目を迎えて益々充実。今シーズンの成績は11勝3敗。先の高松宮杯の県予選では優勝戦まで進出。この時も長崎代表に1-2で惜敗した。打線はクリーンアップの肥後屋、早田、浦田を中心に切れ目がない。特に一二番の江田、堤の

出塁率はよく点に結びつくケースが多い。またここ一発の代打陣は柳本、三輪、桑山のベテランがでんと控えている。

投手は本格派の山口、技巧派の大畑。大畑はカーブ、シュートの切れがよくリリーフにはうってつけ。女房役堤のリードも心憎いばかりだ。守備陣は軽快なフットワークで広範囲な守備を誇る江田遊撃手を中心に内外野ともまとまっている。

監督・柳本一郎 主将・江田徹 投手・大畑達夫、山口正明 捕手・堤充治、桑山正明 内野手・肥後屋忠三輪直己、浦田利雄、木山光弘、作元公三 外野手・早田毅、村井哲夫、高本健治、黒崎洋介

東芝炉材 逆転 サヨウ勝ち 向井 (諫早) の本塁打もむなし

【二回戦】=第5試合= (延長10回) 振球犠盗併残失 (審判)岩永、松尾、中田、伊藤

諫早クラブ	100 002 000 1	4	5	4	0	4	0	7	1	1時間42分
東芝炉材川棚	003 000 000 2x	5	7	1	2	1	1	4	3	

【評】試合は二転三転、波乱に富み面白い試合だった。延長十回、前試合で決勝点を叩き出した向井が左腕矢ヶ部の0-2からの好球を左翼席にソロホーム。これで勝負は決したかに見えたが粘る東芝炉材はその裏に先頭の今里が安打に出ると手堅く送り矢ヶ部が右中間を破ってタイにした後投手暴投で三進。浜田の一塁前のゆるいゴロで矢ヶ部が還り逆転勝ちした。宇戸はアウトカウントを二死と勘違いしていたようで一塁ベースにかけ込んだが本塁に投げてもおそ

らく間に合わなかっただろう。それまでも1点の先行を許した東芝が二回田代と今里の連打で築いた好機に矢ヶ部の二塁強襲、前田の中越え二塁打で3点を挙げれば、諫早は六回高島の好打で同点にするといった具合で熱が入っていた。連投の宇戸は三回の3点は捕手のボーンヘッドが重なったためにもよるが延長戦になってからは明らかに疲れており、刀折れ矢尽きた感じだった。

【諫早】打安点
⑧每熊 5 1 0
⑨本田 4 1 0
⑦向井 5 2 1
③松本 3 0 0
⑤高島 5 1 2
②山口 1 0 0
6 熊崎 2 0 0
④神崎 4 0 0
①宇戸 4 0 0
⑥2 中路 4 1 0
37 6 3

【東芝】打安点
⑧1 矢ヶ部 5 2 2
④浜田 4 0 1
⑤8 前田 4 1 2
②青木 4 0 0
③大野 4 0 0
①5 林 4 1 0
⑨田代 4 1 0
⑥今里 4 3 0
⑦畑中 2 0 0
H7 福島 0 0 0
35 8 5

『出場チームの横顔』 大会4日前の長崎新聞に掲載：諫早クラブ

長崎国体での優勝を目標に諫早市の内田医師夫妻の肝入りで4月に結成されたばかりだが7月の高松宮賜杯全日本1部県予選に優勝するなど実績をあげている。諫早高野球部OBが中心であるが、昨年優勝した県庁の宇戸投手(諫早県税事務所)を加え佐藤と投の両輪を形成しているが二人とも完投能力がありどの試合でも相手に2点以上許さず安定した投手力を誇っている。特に宇戸は試合経験も豊富で大試合

になるほど心強い。どちらかという守りのチームで充実した投手力におんぶされた格好。地区予選の決勝戦、長崎無線との試合では2-2のまま延長戦に入って押し気味の試合展開もここ一発が出ず、再度の継続試合で三日間にわたり27回を戦ったほど。このところ湿りがちの打線をどこまで上向きにできるかが本大会での活躍のカギ。

監督・鶴島忠義 投手・宇戸直善、佐藤竜哉、田中充 捕手・山口健一 内野手・北川公文、渡部亮二、荒木博行、小森徹也 高島隆弘、熊崎輝満、中路照幸、神崎征治 外野手・松本博、本田直幸、向井淳、東英昭、木下昌博、内田正記、千住良広

ベスト4に進出した『出場チームの横顔』大会4日前の長崎新聞に掲載：長崎県庁

昨年の優勝投手宇戸が諫早に移ったため投手陣に穴があいた。代わりにという訳ではないが堀口が諫早から戻ったものの堀口一人では手薄なため藤岡石油の山内を補強した。

山内はスピードはあり好調ならば簡単に打てない。堀口も後半球威が鈍るが五回ぐらいは安心して使えるようだ。だから投手力は昨年のように万全といかないまでもまずまず。

問題は打力。昨年もそうだったが今年も打力のあるチーム

とはいえ苦戦している試合が多い。特に昨年の大会で連続2打席ホーム、通算3本塁打の大会新記録を作った佐々野の不振が痛い新戦力の宇野、今村、比留木といったところもまだ軟式に馴染んでいないようだ。だから井口(農協)、宿輪(藤岡)を補強しているが、連勝を狙うには打線の奮起が必要だ。井口、宿輪の加入で内野陣はグッと強化されたが・・・。

監督・中村豊 助監督・松尾躬 コーチ・川原茂徳 主将・佐々野泰臣 投手・堀口春紀、山内英夫 捕手・松尾隆藤、宇野勝文
内野手・中川繁森、白浜真、小森文人、越本博、犬塚久人、井口一彦、宿輪幹彦 外野手・本田崇、町田昇、野口博、今村喜久男、比留木満

ベスト4に進出した『出場チームの横顔』大会4日前の長崎新聞に掲載：海自佐世保工作所

県下大会に出場するのがこれで4回目。平均年齢も24歳と若い新進気鋭のチームだ。佐世保地区予選では一回戦で前年の地区代表で準優勝の親和銀行を2-1で破った。チャンスとみれば上位から下位までたたみかけるように打ち出す打線は目を見張らせる。3割5分1厘の高打率を誇る林に、田島、稲田を加えたクリーンアップを軸によくまとまっている。

どちらかといえばチームワークの良さと強力なパンチを持

つ打力を看板とするチームだ。地区予選では3割6厘のチーム打率を記録した。

守備面では内外野ともよくまとまっているが投手陣の弱さが目立つ。主戦の田島はコーナーをうまく攻めるカーブが武器。リリーフの稲田は左腕で低目を突く速球には威力がある。地区予選での防御率は1.17でまず無難だったが、田島、稲田とも小柄な身体だけにスタミナ面で心配される。

部長・林隆 監督・瀬戸口孝 投手・田島稔、稲田繁 捕手・佐々木久富 内野手・菅利美、徳永雄造
林俊夫、山崎強喜、山崎光雄 外野手・加藤武登、早崎君夫、秀島竜男、大塚和博、野田富久

ベスト4に進出した『出場チームの横顔』大会4日前の長崎新聞に掲載：三菱重工長崎

今年も国体西九州予選に県代表として出場するなど県下でも実力を認められているチームだが不思議と本大会では華々しい活躍を見せていない。一昨年の大会でも優勝候補の一つに挙げられながら九電工に前年に続いて苦敗を喫した。

従って「今年こそ」と本大会にかける意気込みはずごい。予選を見た感じではそれほど当たっているとはいえないが、チャンスメーカーの山田から小崎、江崎、田中、真崎、松山

と続く打線は勝負強い。過去の実績によらず当たっている者を中心にオーダーを組むという厳しさがうかがえるがこれが選手を奮起させているようだ。頭の痛かった投手陣に日通の福岡を加え厚みが増した。福岡は最近やや調子を落しているのだが外角球が決まれば容易に打てない。他には速球の野原やカーブの松山、田中がいる。投打にバランスの取れたチーム。本大会への出場は四回目。

部長・岩本勇 監督・竹本恵三 投手・野原富安、田中健一 捕手・江崎利男 内野手・洲崎利則、真崎重孝
田中明弘、松山靖彦、野中光之 外野手・山田富嗣、黒岩征也、小崎秀和、是成晴和、友久保高、永尾四郎

ベスト4に進出した『出場チームの横顔』大会4日前の長崎新聞に掲載：東芝炉材川棚

昨年に続いて二回目の出場。大村東彼地区では最強のチームといえる。昨年は全国大会に出場した直後にエースが退社してその穴が埋まらないまま出場してやや期待を裏切ったが今年はメンバーこそ変わらないものの調子を上げており期待できそう。

投手陣は前田を中心に林と左腕の矢ヶ部がいるが3人とも小柄で力で対決していくタイプでなくコーナーワークが身上。

予選で活躍した林が現在ヒジを痛めているのが気がかりだが3投手が2、3点に抑えれば勝機は充分にある。

クリーンアップトリオの前田、青木、大野は長打は無いが好機に強い。1番、矢ヶ部は出塁率4割を誇っており塁に出ればうるさい存在になりそう。チーム全員が短打主義に徹しミート打法に激しい練習を積んでおりこの成果が試合に現れるか見もの。チームワークは良く意欲を燃やしている。

監督兼投手・前田泰弘 捕手・青木忠 内野手・福島睦男、大野耕蔵、林淳之助
今里幸洋、茶木原勝利 外野手・畑中健吾、矢ヶ部俊征、浜田富義、田代修一

1967年の県下軟式野球界のベストワンを決める第17回県下軟式野球選手権大会最終日の15日は、午前9時から快晴に恵まれた長崎市宮大橋球場で勝ち残った県庁、海自佐世保工作所、三菱重工、東芝炉材のベスト4によって準決勝、決勝が行われた。準決勝第1試合県庁-海自佐世保工作所は県庁打線が爆発し6-0で海自工作所に快勝。続く第2試合の三菱重工-東芝炉材戦は二回成の適時

打で2点挙げた三菱が継投で東芝炉材の反撃をかわし決勝に駒を進めた。この結果決勝戦は県庁と三菱重工の長崎同士の対決となり見ごたえのある投手戦を繰り広げたが三菱重工が1-0で勝ち初の栄冠を獲得した。大会終了後、両軍ナインによる長瀬ゴム(マルケンボール)提供による記念ボールの投げ入れがあった。なお本大会に長崎雪印牛乳販売と平和運動具店が協賛した。

海自、堀口を打てず

県庁 田島の立ち上がり襲う

【準決勝】

長 崎 県 庁	300 102 000	6	1	6	0	2	1	9	2	1時間48分
海自佐世保工作所	000 000 000	0	5	3	0	0	1	7	0	

振球犠盗併残失

【三】小森、井口、宿輪 【二】山崎強 (審判)中田、森、佐方、鈴木

【県 庁】打安点

④井口	4	2	1
H6犬塚	1	0	0
⑥宿輪	3	1	1
H4白浜	1	0	0
②松尾	3	0	1
2宇野	1	0	0
③佐々野	4	2	0
⑨町田	2	1	0
H越本	0	0	0
R9本田	1	0	0
⑤小森	4	1	2
⑦今村	3	0	0
⑧比留木	4	0	0
①堀口	4	2	1
35 9 6			

【評】前日の福江球友戦で好投した田島の軟投もじっくり見極めて打つ県庁打線には通じなかった。立ち上がりコントロールが悪くスピードが無いのに制球難では相手打線は押さえようがない。初球を井口に左前打され二盗と暴投で三進を許し宿輪に四球後松尾の遊ゴロで1点。さらに二死から町田に四球を与え小森に右中間を破られ早くも3点を失った。勢いに乗る県庁は三回の好機は町田のアウトカウントの感違いからダブられ得点出来なかったが、四回は堀口の適時打で1点。六回には二死から堀口の左前打を足場に井口、宿輪の連続三塁打で2点を加えた。海自はこの大量失点に気落ちすることもなく堀口攻略に全力を注いだ。4安打を記録しただけでシャットアウトに甘んじた。海自にとって惜まれるのは三回まで毎回得点圏に走者を進めながら、いい当たりの打球が野手の正面を突く不運もあって得点に結び付けなかったこと。特に二回は林の右中間を抜けそうな打球を町田の美技に阻まれたあと稲田、早崎の連打が生かされなかった。県庁の堀口は三回まではスピードが乗らず良い出来ではなかったが、四回以後立ち直り特に落ちる球を効果的に使って海自打線を完封した。

【海 自】打安点

②1佐々木	3	0	0
⑧大塚	4	0	0
⑤山崎強	2	1	0
①32田島	4	1	0
⑥林	4	0	0
③13稲田	4	1	0
⑨早崎	4	1	0
④山崎光	3	0	0
⑦秀島	3	0	0
31 4 0			

東芝炉材、残塁13

三菱重工やつと勝つ

【準決勝】

東芝炉材川棚	000 000 000	0	7	5	0	1	0	13	1
三菱重工長崎	020 000 00X	2	2	8	1	2	0	10	3

振球犠盗併残失

【二】畑中、江崎 (審判)上川、清水、宮口、深堀 1時間53分

【評】三菱重工は二回に2四球走者を二三塁に置いて是成が中前に2点適時打し試合の主導権を握った。だがその後は代わった前田の変化球にタイミングを外され塁上に走者は出すが決定打が奪えず追加点があげられずじまいだった。しかしそれに輪をかけたように歯がゆい攻撃振りだったのが東芝炉材で安打数も三菱を上回る7本を記録。八回を除いて毎回走者を出したが残塁13が示すように拙い攻撃で2失点をはね返せなかった。東芝は三回に安打の矢ヶ部が二盗後に青木の中前打で中前打で本塁を突いたが中→遊→捕の好返球に刺されたのが痛かった。また初回一死一三塁に4番青木に強攻させたところ三振に終わり先制機を逸したことも大きかった。結果論だがここは手堅くスクイズでもして先取点をとっておくべきだったろう。三菱重工は勝ちました。先発福岡が先頭の矢ヶ部に安打された後、林に0-2のカウントで肩の痛みを訴えて降板。急きょ決勝戦に取っておくはずの野原を送ったが野原も球が走らず苦しいピッチングだった。

【東 芝】打安点

⑧矢ヶ部	5	3	0
④林	3	0	0
⑤1前田	5	0	0
①5青木	5	2	0
⑨田代	4	0	0
③大野	3	1	0
⑥浜田	4	0	0
⑦福島	2	0	0
②畑中	4	1	0
35 7 0			

【三 菱】打安点

⑧山田	1	0	0
⑨小崎	4	0	0
⑦16野原	3	1	0
③田中	2	0	0
⑤野中	4	1	0
②江崎	2	1	0
④真崎	3	0	0
①福岡	0	0	0
7是成	4	1	2
⑥1松山	4	0	0
27 4 2			

天皇賜杯第22回全日本軟式野球大会 8/12～・岐阜県

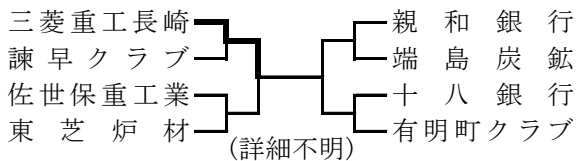
三菱電機【二】2-0 丸善石油下津(和歌山)
 " 【三】0-4 西川物産(石川)

常陸宮賜杯第3回全日本準硬式 6/6～・徳島県

十八銀行【一】13-8 仙台稲荷クラブ(宮城)
 " 【二】0-4 大愛メリヤス(富山)

第22回埼玉国体【28チーム】は不出場

県予選会



高松宮賜杯第11回全日本2部 9/17～・愛知県

【一】浜崎水産 4-1 広川KK(岐阜)
 【二】" 0-8 沖電気工業(埼玉)

第20回長崎県民体育大会 11/4～・長崎市

【一回戦】
 南高 1-0 平戸 福江 3-1 島原
 北松 1-0 大村 対馬 5-1 北高
 東彼 1-0 諫早 佐世保 1-0 西彼
 長崎 4-3 南松

【二回戦】
 松浦 1-0 南高
 【決勝】
 長崎 5-0 北松
 5回降雨コールド

延長11回
三菱重工が逃げ込む

県庁、再三の好機つぶす エラーで決勝点

【決勝戦】 (延長11回) 1時間56分 振球犠盗失残失

三菱重工長崎	000 000 000 01	1	7	3	0	4	0	5	2
長崎県庁	000 000 000 00	0	4	0	0	0	0	7	2

【三】山内 【二】野中 (審判)松尾、伊藤、岩永、井上、鈴木、森

【評】エラーで勝負が決まるという物足りない面はあったが野原-山内の対決は見事な投手戦を展開し優勝戦にふさわしいゲームだった。三菱重工の野原は県庁に対してこのところ負けを知らない。先日の県体予選でも完封しており、県庁には絶対の自信を持っているようだ。

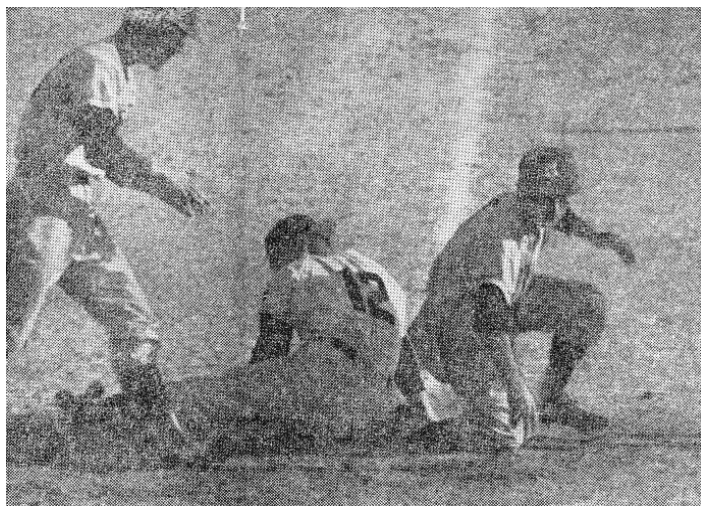
準決勝で福岡が使えぬ誤算から六回を投げたため、この試合はどうかと思われたが前試合とうってかわって素晴らしいピッチングを見せた。外角カーブ、内角シュートでカウントをかせぎ、緩いカーブを打たせていたがこの野原に県庁打線は一回三塁失を足場に松尾のヒットエンドランが成功して一死一三塁としたが佐々野がスクイズ失敗後三邪飛。町田も二ゴロに倒れた。

四回にも松尾と佐々野のバントヒットで揃った無死一二塁も町田の送りバントが正面をついて三封。後続も断たれて得点機をものにできなかった。これに対し県庁の山内も外角低目いっぱいに入る速球に切れのよいカーブで対抗。許した安打は五回の野中の左越え二塁打と江崎の風に流された遊撃背後の安打の2本だけ。殆どチャンスらしいものは与えず野原に勝るとも劣らぬピッチングだった。

かくして延長戦に入り10回三菱、県庁とも二死三塁のチャンス逃した後の11回。三菱は二死後成が四球に出ると立て続けに二三盗。この三盗のとき松尾の送球が悪投となって三菱は決勝点をつかんだ。

三菱はチーム随一の俊足成が塁に出たのでイチかバチかのバクチを打った訳だがこれが見事当たった。松尾も是成が二盗した後すぐ三盗を凶るとは予想もしておらず意表をつかれた形だった。しかし最後にエラーを犯したとはいえ松尾のリードぶりは光っており山内が好投できたのも松尾のリードに負うところが大きく責められるものではない。

延長11回表、是成(右)三盗の際、捕手の悪送球で生還。ガックリする松尾。左は打者江崎。



【三 菱】打安点

⑧山 田	5 0 0
⑦是 成	3 0 0
②江 崎	5 1 0
③田 中	4 0 0
①野 原	4 0 0
⑤野 中	3 1 0
⑨小 崎	4 0 0
④真 崎	4 0 0
⑥松 山	4 0 0

36 2 0

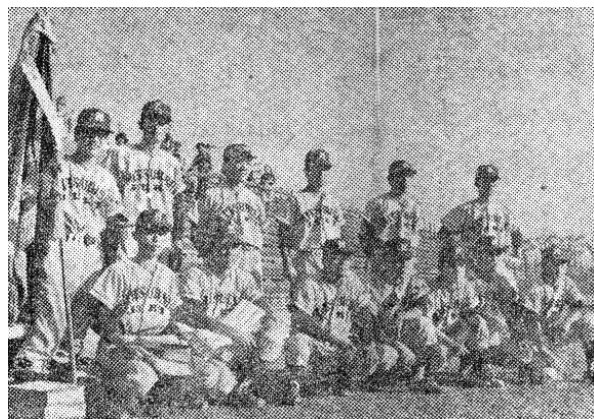
【県 庁】打安点

④井 口	5 0 0
⑥宿 輪	5 0 0
②松 尾	4 2 0
H堀 口	1 0 0
③佐々野	5 1 0
⑨町 田	4 0 0
⑤小 森	4 0 0
⑦今 村	4 0 0
⑧比留木	4 1 0
①山 内	4 1 0

40 5 0

表彰選手

- ・最優秀選手賞 野原富安投手(三菱)
- ・首位打者賞 矢ヶ部俊征外野手(東芝炉材)
- ・打 撃 賞 松尾高藤捕手(県庁)
向井淳外野手(諫早ク)
堀口春記投手(県庁)
- ・敢 闘 賞 山内英夫投手(県庁)
是成晴知外野手(三菱)
野中光之三塁手(三菱)
- ・勝利監督賞 竹本恵三監督(三菱)



優勝した三菱重工エナイン